

## 令和6年度 函館あおい認定こども園 自己評価・学校関係者評価表（10段階評価）

評価分類	評定	内 容
保育の計画性	8.6	園の教育理念や教育・保育方針を理解している。
	8.7	園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる。
	8.0	幼児の生活が豊かになるような行事を、幼児の実態に合わせて精選している。
	8.2	指導・保育計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるような環境構成をしている。
	8.9	保育教師の願いや意図をもって環境構成をしている。
	8.3	自分の保育と計画の評価・反省は、行うようにしている。
	8.0	幼児が自ら活動を生み出していけるような素材との出会いを考えている。
保育のあり方・幼児への対応	8.0	園内に危険な個所がないかどうか、危険な遊び方はないかななどを常に観察している。
	8.1	幼児同士のかかわりの中で、その姿の内にある心の動きについても、推察するようにしている。
	8.1	個々の幼児の発達の様子や課題について見通しをもって理解できる。
	8.9	一人一人と集団の関係を、常に考えながらかかわっている。
	9.2	クラスに関係なく、その場にいた教師が適切な言葉かけや対応をしている。
	8.3	クラス的环境構成などについても、お互いに意見を交換している。
	8.6	幼児のことについて、常に保育教諭同士で話し合い、クラス・学年をこえて情報を共有している。
資質・能力・良識・適性	8.5	締切りのある仕事や提出物は締切日をきちんと守っている。
	8.4	クラス内はもちろん、園内外の清掃や整理整頓を実行している。
	9.6	教職員全員でひとつのチームであることを意識している。
	7.7	会議の時は、自分の意見や質問を前もって考えている。
	7.8	保護者に対し、幼児のことや自分の保育のことをわかりやすく話すことができ、保護者との信頼関係を作ることに努めている。
	8.5	自らの健康にも配慮し、つめが伸びていないかどうか等、保育をする上での安全性にも気をつけている。

評価分類	評定	内 容
保護者への対応	8.6	個々の子どもの様子は直接話を行い、電話・連絡帳などを使って伝え合っている。
	8.5	保護者の要望等を受け止めて実行する場合は、そのことの保育要素・教育的な意義付けを、はっきりとさせてからにしている。
	8.2	自分の考えをきちんと話し、保護者の話に関心をもちよく聞く。
研修と研究	7.9	研究保育を参観する時は、自分なりの課題と視点をもって観ている。
	7.8	自分なりの幼児観・保育観の確立のための研修・研究を行っている。
	7.8	園内の環境を、いくつかのまとまりや、関連性を持たせて保育の計画・実践に生かすことができる。

## ～学級経営反省点～

### 【1号認定児・2号認定児】

- 新しい事・楽しい事が大好きな子どもたちは、何事にも意欲的であり、挑戦することができていた。反面、自分の好きな事以外に興味を示さない子ども数名おり、誘っても断る子どももいた。どうしたら楽しさを伝えられるのかを悩んだ場面もあり、全員が何事も挑戦する事の楽しさを感じられるような保育をすすめたいと思った。（9年目：保育教諭）
- クラスの枠を超えて隣のクラスとのかかわりや、活動を通して仲を深め、自分たちで考える一人ひとりが意見を伝え合う、みんなで協力し合うことの楽しさなどを学べる良い時間をたくさん過ごすことができた。（9年目：保育教諭）
- 言葉で気持ちを伝える力がつき、深いやり取りができるようになった分、気になる子の存在が目立ち、援助方法の難しさを感じた。言葉だけではなく、視覚的な援助や理解力が深まる方法を工夫したいと思う。（9年目：保育教諭）
- 食への苦手意識を持つ子どもが多く、食べても吐き出したり、話に夢中で手が止まってしまう事があった。食に関して「苦手なものを子どもと相談して、少しに減らす」という内容を頑張りたい（子どもと保護者）人と、頑張らなくていい（保護者のみ）人がいることが、同じ環境にいて援助が違ってくることが、集団という環境の中ではいつも悩んでしまう。（9年目：保育教諭）
- クラス全体が園生活に慣れ親しむ中で、登園渋りや保育室に向かうまでに時間がかかる子の姿があった。また、家庭によって登園をさせてくださる気持ちの幅が大きく、出席日数にも大きな差があった。（5年目：保育教諭）
- 子どもたちの「やってみたい」という気持ちを尊重し、新しい事にも挑戦できるよう環境を用意するという点では、興味や関心の声に耳を傾けながら、好きな遊び・昼食後の時間を使い様々な遊びへ発展できたと思う。（4年目：保育教諭）
- 2号認定児として、様々な先生方や友達とかかわる中で、相手の気持ちを考えずに行動や言葉を発してしまい、トラブルになってしまう事が多かった。一日の在園時間が長い中であるので、しっかりと自分の気持ちやその中で相手の気持ちに気づけるような促し、また、楽しさの中にもリラックスできる環境も配慮し準備したいと思った。（4年目：保育教諭）
- 年少児の中に満3歳児も一緒に過ごす中で、小さな異年齢児の流れができ、個々の成長やお世話をする心の育ちに影響力が良い方向にたくさんあったと感じた。（3年目：保育教諭）

### 【3号認定児】

- クラス運営については目標をもとに、月齢による成長過程や個々の成長に合わせた保育を考え、その日の健康状態等も含めて職員間で話し合い、一人ひとりに寄り添った保育を心がける事ができた。（5年目：保育教諭）
- 保護者の方とは食事の事や健康状態等をこまめに伝え合えるよう心掛け、子どもの成長と一緒に喜べたことも日々の励みとなっていた。食事の面はアレルギー食に対して、研修等で学ぶ機会もあり、命を預かる責任感を改めて感じると共に食育についても学ぶ事があると思った。（5年目：保育教諭）
- 友達とのかかわりが増え、遊びに誘ったり遊びの中に加わる場面も見られて楽しんでた。物の貸し借りや困っている時には言葉で伝え合うことができるようになった反面、お互いの気持ちがすれ違い自分の思い通りにいかない時にトラブルが多くなってしまった。咄嗟的に手が出てしまうことや、相手が傷つく言葉を言ってしまう事も見られた。相手を思いやる気持ちを大切に出来るような言葉がけ、援助が課題として反省点である。（4年目：保育教諭）
- 色々な遊びや周囲の友達への関心を広げることが出来るようスキンシップや集団遊び等、様々な援助・保育を心がけてきたが、友達とのかかわりの中で自分の思いを言葉にして伝えられるような援助や、保育者の話を集中して聞くことが出来るような工夫が上手くできなかった。（4年目：保育教諭）
- 一人ひとりの気持ちに寄り添い、個々に合わせたかかわりをする事で、安心して過ごすことができるクラス作りが出来ていたように思う。保護者に対して、必要な情報（例えば流行っている感染症等）をお伝えするのが遅くなってしまふ事があったので反省事項である。（6年目：保育教諭）
- 個々の生活リズムやその時の離乳食等、誰がクラスに入ってもわかりやすい環境づくりをする工夫がもっと出来ればよかったと感じる。次年度はそれに向けてすすめていきたい。（6年目：保育教諭）
- クラスの中での噛みつきやひっかき等のケガが月齢があがるにつれて増えた。かかわり方を伝えると共に、安全管理の点で保育士の配置や声掛けが充分であったかをその都度確認し合うことが必要だと感じた。（6年目：保育教諭）
- 着脱などの年明けより、クラスの子は意欲的に出来るようになってきたが、まだ保育者の援助を必要とする場面も多い。もう少し今後は早目からの経験をすすめ、重ねていけるように配慮したいと思った。（3年目：保育教諭）

### 【今後取り組みたい課題】

- クラスとしてのまとまりの他にも、学年としての隣のクラスとのかかわりも大切にし、楽しめるような遊びや活動の設定を、積極的にすすめたい。（9年目：保育教諭）
- 基本的な事ではあるが、子どもたちの言葉・思いをより保育に取り入れる事ができるよう、集団遊びのチームを子どもたちで話し合って決めたり、意見を出し合ってすすめる等、自分たちで考えられる機会作りを行いたい。（9年目：保育教諭）
- 食により、興味をもったり、知識を深められる活動を取り入れたいと考えている。食育ボードを活用したり、3色の栄養素のクイズなどを用いて、少しでも野菜を身近に感じ、親しみを持てるように工夫したい。（9年目：保育教諭）
- 様々な特性をもつ子どもたちがいる中で、クラス全体での指示の理解を深めるためにも、普段から視覚を用いた援助や見える化しを意識した保育を年齢児問わず取り入れていきたいと思う。（8年目：保育教諭）
- 幼稚部での異年齢児のかかわりは、遊びを通して深まっていたが、保育部とのかかわりはあまり出来なかったため、お遊戯室での遊びの時間などで少しでもかかわることができると、年少児や満3歳児も小さい組に対してのかかわり方や、優しい気持ちを引き出せるようにすすめてみたい。（5年目：保育教諭）
- 来年度はまた新しい環境になるので、子どもたち一人ひとりの個性が力を伸ばせていくことが出来るよう、丁寧に信頼関係を築いていきたいと思う。（4年目：保育教諭）
- 成長の気になる子だけではなく、クラス全体に目を向けながら個々に合わせた保育を心がける。（3年目：保育教諭）
- 月齢・発達に合った保育を大切にし、保育がマンネリにならないように日々学び、新しいものも積極的に取り入れていきたいと思っている。（6年目：保育教諭）

## 【学校関係者からの評価】

- 担任の先生だけではなく、他の先生方も子どもたちの名前を覚えて、会うたびに声掛けをしている姿を見て、園全体で保育をしてくださっている感じがして、とても信頼できます。
- 自己評価の評価を見てわかるように、「教職員でひとつのチームであることを意識し、クラスに関係なくその場にいた教師が声掛け・対応している」がとても高く、見ていてその通りだと思いました。子どもから担任の先生以外の話をよく聞いたり、お迎えなどで園に行くと様々な先生から子どもの様子などを教えてもらう事がよくあり、園全体で見てくださっているのだと日頃から感じている。
- 行事に於いても、毎年三役の皆さんで反省会を行い、年々改善され、更に素敵な園へと成長しているようにも見えます。これからも教員の皆様と保護者の皆様が一丸となって、より一層素敵な園へと成長できるよう思っております。
- 元気で明るく笑顔が素敵な園長先生です。お忙しいとは思いますが、子どもたちの前にどんどん出てきてもらえたら嬉しいです。いつしかなくなってしまった園長先生の「あおいちゃんだより」好きでした！
- 感染症などの報告など、細かく連絡があります。園では咳をしてもマスクをしない子も見られたりするので、（マスクを出来る年齢の子に対しては）行事前などマスクの協力を呼び掛けてもいいと思っています。